

アシスティブ・プロダクツ

福祉用具で生活をアシストする

Vol.20
2021年

変わる時代を

支えるもの。

自動運転技術を駆使して

ワクワクするロボットが走り回る

「ロボタウン」の実現へ。

「社会生活モデル」としてのICFが

福祉用具の可能性を大きく広げる。

パートナーとなって

コミュニケーションをサポートするロボットは

ひとを愉快にする「妄想」から生まれる。

「良い姿勢」をつくることではなく、

その活動に「適した姿勢」を支援する。

シーティングの目的はここにある。

「良い姿勢」を

つくることではなく、

その活動に

「適した姿勢」を支援する。

シーティングの目的は

ここにある。

座っている姿勢を見るだけでなく、
24時間、その人がどんな姿勢で過ごしているか。
その姿勢のバリエーションと
座位の関係性を見ることが。
それがシーティングを考えるうえで
大切である。

車椅子姿勢保持適合技術連絡会
一般社団法人日本車椅子シーティング協会

松野史幸氏

Matsuno Fumiyuki



姿勢のバリエーションを見る

私たちは24時間の1日の中で、3分の1の時間を「寝て」過ごし、3分の1を「座って」過ごし、残りの3分の1を「立って」過ごしています。障害を持つことで、立位や座位が取りにくくなると、寝ている時間が多くなり、そのことが原因となって、身体機能や活動において何らかの“不具合”が起こってきます。

シーティングをする時には、その人がどんな姿勢で寝ているのか、立ち上がることが出来るのかなど、24時間の姿勢のバリエーションと座位の関係性を見ていくことが有効です。

例えば、体が丸まりやすい高齢者がシーティングする時、その人は寝て

いる姿勢もまた側臥位（横向き寝）で、丸まりやすい姿勢のまま寝ていることが多いのです。その時、シーティングで出来るだけ身体を伸展させようとしても限界がありますが、寝ている姿勢の中で仰臥位（仰向け寝）で、リラックスして身体を伸ばす時間が増えると、座位姿勢も改善されることが多いのです。

その人の目的に 合っている座位かどうか

シーティングをする際に、「良い座位姿勢をとる」ということを考えがちですが、人に於いて唯一無二の「良い姿勢」などというものは存在しないと考えることが出来ます。私たちが提供するシーティングは「適した姿勢」を提供

することです。適した姿勢とは、私たちが日常的にとっている座位姿勢についてふりかえると理解することが出来ます。食事をする時、会議をする時、休息をする時。それぞれに、座位姿勢の様子は異なります。

例えば、「ソファ」での座位姿勢は「休息に適した姿勢」です。ソファは長時間映画を楽しむには向いていますが、そのソファでラーメンを食べることを想像してみてください。とても食べづらそうですね。一方で、平らな固い座面の椅子は食事や文字を書くことには適していますが、休息することには不向きです。

つまり、「良い姿勢」「悪い姿勢」、「良い椅子」「悪い椅子」というような見方ではなく、その人の身体状況や座位姿

勢で“したいこと”に「適しているか」どうか大切です。

**その人に合わせて作る
アシスティブ・プロダクツ**

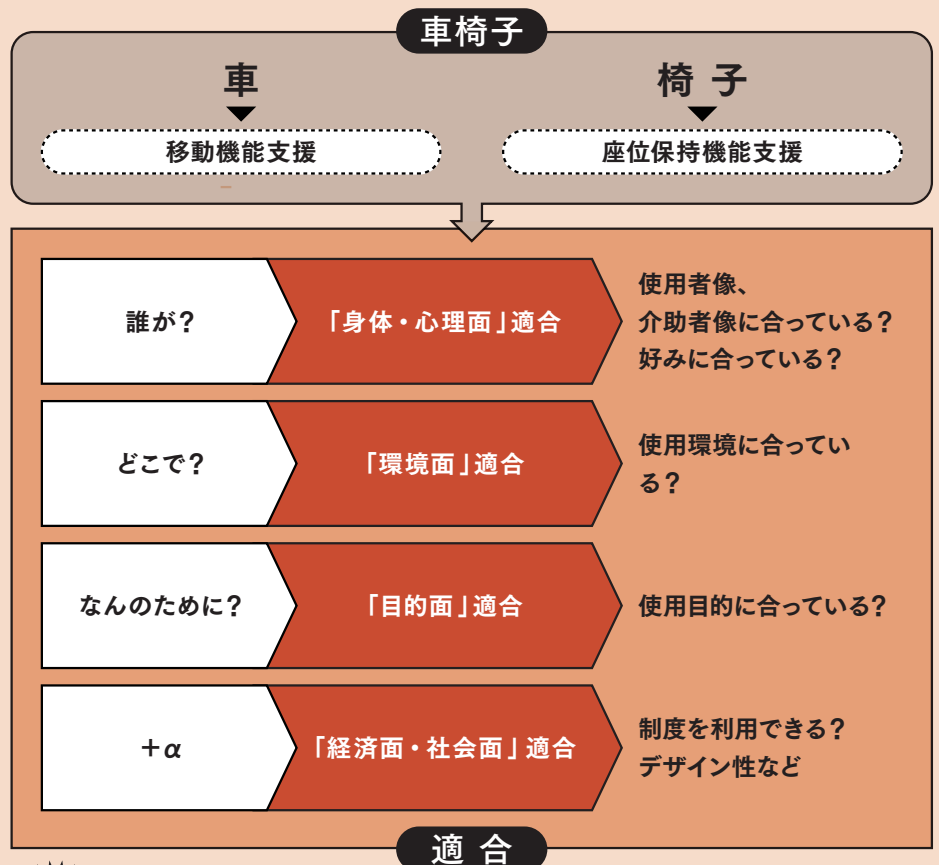
同じ障害を持っていても、その人によって「何をしたいか」という目標、目的は違います。逆に同じ目的でも障害が違えば座位姿勢は変わってきます。「誰が」「どこで」「何のために」。この3つの組み合わせから上手に「解」を見つかけられると、その機器は使いやすいものになります。

支援機器に限らず、私たちは普段から「誰が」「どこで」「何のために」という3つの切り口から、使うものを選んで生活しています。例えば、「飲み物を入れる容器」について考えてみます。長時間外出するときには水筒を持ったり、500mlのペットボトルを持ち、家の中では2リットル入りのペットボトルからグラスに注いで飲みます。コーヒーならば、飲みきれず状況では、缶入りのものを選ぶこともあるでしょう。

このように、私たちは日常的に、「どこで」「何のために」使うかを無意識に考えて、プロダクツを選択しています。では、「誰が」という視点で考えてみると、缶飲料のプルトップが固くて爪を傷めるので女性が使いづらかったり、高齢の方が指の力が足りなくてペットボトルの蓋が開けられなかったりする例があります。

普段私達が接している「マス・プロダクツ」は最も使用者の多い購買者の「誰が」「どこで」「何のために」を想定して作られたものです。個別性の高いマイノリティである障害者や高齢者を想定していないのです。だからその、その対義語として「ユニバーサルデザイン」とか「共用品」という概念が生まれます。

一方で、障害を持った状況というのは、人間側の対応力が少し狭くなった状態であるということが出来ます。先の飲み物の例をとっても、手がうまく動かなかったり、指の力が足りない場合、どこでも売られているペットボトル飲



注意! 身体的適合に充分配慮しながら、身体的適合だけに捕らわれないこと

料がとても使いにくいことがあるのです。だからこそ、アシスティブ・プロダクツにおいては、「誰が」「どこで」「何のために」という3つの要素を丁寧にしながら、その最適解を見つけていくプロセスが必要で、それが少しズレているだけで、障害者にとって用具は「全く使えないもの」になってしまいます。

産業革命の後、マス・プロダクツが生まれるまで人が使う用具は個別性の強い物でした。農夫の“ひとりひとりの好み”に合わせて鍛冶屋が鎌や鋏を作っていたのです。そういった意味でアシスティブ・プロダクツは「特異解」ではなく、人に合わせて物を作った時代の「物づくり」に対する“本来のあり方”が分りやすく残っている世界ではないかと思います。

**生きるために、
快適な座位姿勢の提供を**

座位姿勢を保つことは大事ですが、そのためには「座って快適」と思わせる車椅子を提供しなければなりません。

ん。提供者がそのノウハウを身に付けることで、快適な座位を取ることが可能となり、結果的にその人の身体の状態を改善し、維持することに役立つ。これが「シーティング」の基本的な考え方です。

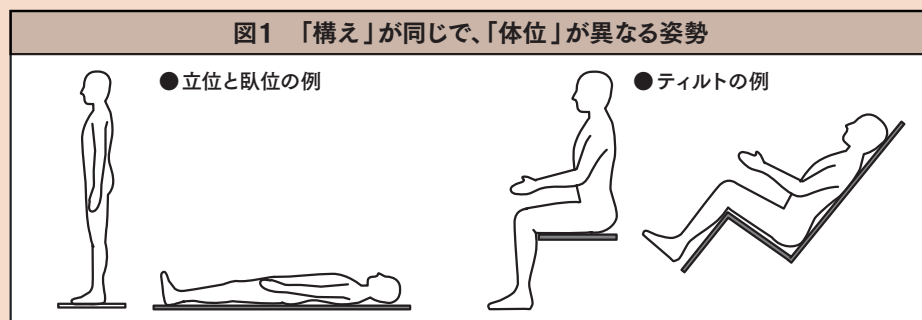
そういった考え方は、障害者や障害児を取り巻く人たちはある程度理解していますが、高齢者に関わっている人たちにはまだまだ「座らせる意味が分かっていない人」が多いと感じます。高齢者施設が急激に増えたことで、シーティングについてのノウハウが追いついていないことに原因があるのかも知れませんが…。

老人ホームや高齢者の病院では、上や横を向いて、頭がのけぞり、口を開けてベッドで丸まっている高齢者の姿をよく見かけます。このとき、多くの場合で呼吸不全や誤嚥が起こりやすくなっています。この原因のひとつが「不良姿勢」によるものです。

座位姿勢が困難になった高齢者は重力に対する姿勢のコントロールが

「姿勢」とは

姿勢の定義（「体位」と「構え」）		
運動学では「姿勢」は「体位」と「構え」から成ります。		
	定義	内容
体位	身体が重力の方向とどのような関係にあるかを表す。	大きくは、立位、座位、腹臥位、仰臥位、側臥位など。重力に対し、体重をどこで支えているかの違い。(図1) ティルトなど、同一の「構え」で体重を支持する部位が異なるものを含める。
構え	頭部、体幹、四肢の身体各部位の相対的位置関係を表す。	身体各部の相対関係が異なる姿勢の違いを示します。(図2)



シーティングとは

「シーティング」とは、座位で行う様々な活動や参加を支援するために、快適に姿勢を安定させ、必要な動きを促すための最適なサポートと調整を実現するための技術的手法を総称する言葉

出典：「福祉用具シリーズ Vol.24 車椅子を知るためのシーティング入門」テクノエイド協会発行

難しくなっています。自分の姿勢が「不安定だ」と感じているから、身体を固めて自分を安定させようとしたり、手すりや自分の洋服にギュッと掴まって体を安定させようとしているわけです。この重力に対する過剰な反応によって起こる不良姿勢がひとつの原因となって、呼吸がしにくく、飲み込みがしにくい身体の状態が定常化していきます。

このように、高齢者に特有の身体状況は姿勢と密接な関係があるので、ベッド上の臥位の姿勢や車椅子上の座位の姿勢をシーティングによって「適正化」することで、身体状況を改善することが出来ます。

シーティングの「入口」となる基礎講習

車椅子姿勢保持適合技術連絡会（以下、連絡会）は2017年に車椅子関連の12団体が集まって発足しました。背景にあったのは、利用者が増え続けているにも関わらず、シーティングに関するノウハウが行き届いてい

ない高齢者分野に対する危機感でした。一方で、障害者分野では利用者の数もそれに関わる専門家の数も増えていないし、将来的にも増えることがないという背景もありました。そこで、シーティングに関して一步先を行く障害者分野のノウハウを、成長が続く高齢者分野に活かせるのではないかと。

『車椅子姿勢保持基礎講習』は「高齢分野」と「障害分野」の2種類の講習を実施します。車椅子や姿勢保持に関わる国内のほぼすべての団体が共有する標準化した技術を学んでいただくことが出来ます。

連絡会がまず目指すのは「シーティングに関するノウハウの普及」です。多くの方に基礎講習を受けていただき、ノウハウを現場に持ち帰っていただき、シーティングや姿勢保持に関わる人材の「裾野」を広げることです。医療職や車椅子の営業職の方だけでなく、高齢者の介護に関わる方々や学校の先生など、幅広い関係職種の方たちに興味を持っていただく講習にし

たい。受講者の数を増やすのが当面の目標ですが、基礎講習はあくまで「入口」だと思っています。興味を持っていた方々がさらに深い知識や技術の習得をめざす場合、それぞれのニーズに合ったアドバンス講習を各団体が行っていますから、ぜひより深い技術の習得に進んでいただければ幸いです。

車椅子姿勢保持適合技術連絡会

- 公益財団法人テクノエイド協会
- 公益社団法人関西シルバーサービス協会
- 一般財団法人啓成会
- 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
- 一般社団法人日本義肢協会
- 公益社団法人日本義肢装具士協会
- 一般社団法人日本車椅子シーティング協会
- 一般財団法人日本車椅子シーティング財団
- 特定非営利活動法人日本シーティング・コンサルタント協会
- 一般社団法人日本福祉用具評価センター
- 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会（SIG姿勢保持・車いすSIG）
- 福祉用具プランナー研究ネットワーク